

13. 理学研究科

(1) 理学研究科の教育目的と特徴	13-2
(2) 「教育の水準」の分析	13-6
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	13-6
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	13-16
【参考】データ分析集 指標一覧	13-18

(1) 理学研究科の教育目的と特徴

1. 教育の目的と基本方針

理学研究科における教育の目的は、「自然科学研究における深い専門知識や方法論とそれを柔軟に展開する学際性をもち、研究や事業を国際的に推進する実行力を備えた、自然科学の新しい発展を牽引する研究者および技術者や、次世代の自然科学研究者養成のための専門教育者、自然科学研究の成果や方法論をもって社会に貢献する高等職業人など、自然科学に係わる様々な分野におけるリーダーの育成」である。

この目的を追求するために、次の基本方針によって教育活動を実施する。

- (1) 最先端の研究教育環境を整備し、専門的な自然科学の知識を教授し、研究能力を培う。
- (2) 講義から研究活動まで、体系的かつ多様な教育プログラムを編成し、調和のとれた自然科学観や豊かな学際性を育成する。
- (3) 国際的な研究教育環境を整備し、国際的にリーダーシップを発揮できる人材を育成する。

上記の基本方針は、名古屋大学学術憲章の教育に関する基本的目標「自発性を重視する教育実践によって、論理的思考と想像力に富んだ勇気ある知識人の育成、人材養成を通じた人類の福祉や世界・社会・文化・地域等の発展への貢献」を、理学分野で実現しようとするものである。

2. 目標と方針

理学研究科の教育目標として、「基礎知識の充実」、「深い思考力の涵養」、「広い視野の育成」を設定し、これを目指す教育プログラムの実施と教育のグローバル化への対応を第2期の重点目標にしている。

全学の中期目標・中期計画にそって、次の方針を立て、目標の達成に努めている。

- (1) 中期目標・中期計画に対応した方針や取組
博士課程教育リーディングプログラムを活用し、専門リテラシー教育、キャリアパス形成、インターンシップ支援など様々な施策により、社会の多様な場で国際的なリーダーシップを発揮できる人材育成を行なう。
- (2) 中期目標・中期計画に対応した方針や取組
博士後期課程において、G30プログラム博士後期課程留学生への支援を行う。
- (3) 中期目標・中期計画に対応した方針や取組
学生の視野を広めるために、企業研究者や国立研究機関研究者、外国人研究者の講義を充実させる。
- (4) 中期目標・中期計画に対応した方針や取組
博士課程教育リーディングプログラムなどを通じて、博士前期・後期課程の学生をRAに採用する。
- (5) 中期目標・中期計画に対応した方針や取組

博士課程教育リーディングプログラムを利用し、産官学が連携をする大学院教育を充実化する。

(6) 中期目標・中期計画に対応した方針や取組

G30プログラム、キャンパスアジアプログラム、博士課程教育リーディングプログラムにより、国際化に対応した教育プログラムを充実させる。

3. 研究科の特徴

ノーベル賞受賞者を輩出した伝統の下、自発性を重視する教育実践によって、論理的思考と独創性に富んだ「勇気ある知識人」を育てることを教育理念としている。この理念のもと、幅広い視野と柔軟な思考力を備えた高度な専門人材の育成の役割を充実するとともに、豊かな学識・専門性とそれを柔軟に展開する学際性を有し、研究や事業を国際的に推進する実行力を備えた先導的な人材育成を実践している。このような教育・研究を通じて社会貢献に取り組んでおり、教育においては以下の特徴や特色を有している。

理学研究科は、素粒子宇宙物理学専攻、物質理学専攻、生命理学専攻の3専攻からなり、各専攻は「大学院専任担当大講座」、「学部兼任担当大講座」、「協力講座」の3種類の大講座で構成される。現在、総計で24の大講座と11の協力講座によって教育・研究が支えられている。さらに、併任・連携講座を設置し、客員教員によりそれぞれの専門分野での研究の進展や流動化に的確かつ機敏に対処できるように、大学院生の教育・研究指導にあたる体制となっている。

アドミッションポリシー：（理学研究科が求める人）

素粒子宇宙物理学専攻：物理法則の探求に深い興味を抱き、研究に対する強い意志と豊かな想像力を持つ人、研究活動の基礎となる優れた基礎知識と物理的思考力を持つ人。

物質理学専攻（物理系）：物理法則の探求に深い興味を抱き、研究に対する強い意志と豊かな想像力を持つ人、研究活動の基礎となる優れた基礎知識と物理的思考力を持つ人。

物質理学専攻（化学系）：科学に関する確かな基礎学力をもち、豊かな未来を担う新物質や新物性の開拓、および物質や自然の理の探求と解明に挑戦できる勇気や瑞々しい創造力を持つ人。

生命理学専攻：生命現象の不思議さや美しさ、巧みさに、飽くことのない興味と関心をもち、真理の解明に挑むために、チャレンジ精神に満ちあふれ、瑞々しい創造力を持つ人。

カリキュラムポリシー：

理学研究科は、「自然の理を解き明かそうとする知的好奇心に 満ち溢れ、自由な

名古屋大学理学研究科

発想と柔軟な思考の上に、高度の専門性と独創性を備えた人を育てる」ことを大学院教育の基本方針としている。理学研究科では、全学共通の教育目的と学位に照らして設定した『基礎知識の充実』，『深い思考力の涵養』，『広い視野の育成』を教育目標におき、次の方針にそって教育課程を編成し、理学の特長に基づく教育実践と研究指導を適切に行っている。

- (1) 講義には、専攻を超えた理学研究科共通の授業科目であるA類、専攻ごとに開講されるB類、および各専攻に属する研究室等において開講されるセミナー等のC類を配置する。
- (2) 専攻の教員が担当する講義に加えて、世界最先端の研究を行っている講師を学外から招待する集中講義も含めて編成する。
- (3) 各専攻では専門分野の特長を活かした科目編成を実施する。

ディプロマポリシー：

理学研究科の教育研究理念「自然の理を解き明かそうとする知的好奇心に満ち溢れ、自由な発想と柔軟な思考の上に、高度の専門性と独創性を備えた人を育てます。」という目標にそって、学力及び資質・能力等の修了資格を満たし、かつ所定の期間在学した者に、修了を認定し、学位を授けている。

4. 学生受入の状況

理学研究科では各専攻のアドミッションポリシーに沿って、博士前期課程・後期課程の入学試験を行っている。物質理学専攻（化学系）では学部3年次からの大学院への飛び入学試験、生命理学専攻では広い分野から多才な大学院生を募集するために本学生命理学科出身者以外の学生を対象にした入学試験を設けている。素粒子宇宙物理学専攻、物質理学専攻（物理系）では自己推薦入試の実施により意欲ある学生を求め、さらに主として高校などの教員を対象とした社会人枠を設けて、多様な学生の入学を可能としている。

理学研究科の入学定員は、博士前期課程 171 名、博士後期課程 73 名である。平成 29 年度の入学者数は、博士前期課程が 183 名、博士後期課程が 46 名であった。博士前期課程の入学者数は定員の 107%程度であるが、これは名古屋大学理学部卒業者だけでなく、他大学からも多数の学生が入学を志願し、適切な選抜試験が実施された結果としての数値である。他大学出身者の割合は、15%である。一方、博士後期課程の入学者数は定員の 64%程度である。平成 23 年度より G30 プログラムを開始し、大学院留学生を受け入れている。化学プログラムでは国際標準テスト GRE を一部導入している。また、物質理学専攻、生命理学専攻では平成 23 年度より博士課程教育リーディングプログラム「グリーン自然科学国際教育研究プログラム」を、平成 30 年度より卓越した大学院拠点形成プログラム「トランスフォーマティブ化学生命融合研究大学院プログラム」を開始、さらには素粒子宇宙物理学専攻でも平成 24 年度より博士課程教育リーディングプログラム「フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラムー産学官連携と理工横断による次世代産業創出を目指してー」を開始している。さらに、理学研究科の大学院生は、24 年度から開始された同プログラム（オールラウンド型）の「PhD プロフェッショナル登龍

名古屋大学理学研究科

門「フロンティア・アジアの地平に立つリーダーの養成」に参加することもできる。
このように、博士課程前期からの一貫教育として、外国人留学生も含めて後期課程進学者の確保に努めている。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 4513-i1-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 4513-i2-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料（別添資料 4513-i3-1～2）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料（別添資料 4513-i3-3）
- ・ 研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（別添資料 4513-i3-4～5）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- カリキュラムの体系的構築[3.1]
 - ・ 理学研究科素粒子宇宙物理学選考物理ミニマ（別添資料 4513-i3-6）
 - ・ 博士課程教育リーディングプログラム
フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム（別添資料 4513-i3-7）
グリーン自然科学国際教育研究プログラム（別添資料 4513-i3-8）
 - ・ 理学研究科授業科目のコースナンバリング
理学研究科授業科目のコースナンバリング（別添資料 4513-i3-2）（再掲）
授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組み。
- ジョイント・ディグリー・プログラム [3.3]（別添資料 4513-i3-9）

- 博士前期・後期課程の研究・教育指導として、副指導教員を配置し複数指導教員体制を導入したことにより、研究指導に複眼的視野を与え、単独指導による過度な専門化を押さえることができる。また、万が一指導教員や研究室メンバーとトラブルが生じたときのセーフティネットとして機能する。 [3.3]
- 素粒子宇宙物理学専攻と物質理学専攻（物理系）では、修士論文の研究発表を合同で実施するなど、博士課程教育に対して多角的な指導を実施。

両専攻は広い意味での物理学を研究対象としているが、素粒子、宇宙、物性、生物物理の4つのカテゴリー各々でディシプリンは相当程度、異なっている。

一方で、物理学はこれらすべてを包括する普遍性が重要であり、他分野・非専門家に対して自らの成果を魅力的に伝えることが求められる。

上記の試みは、研究者のキャリアの初期段階である修士論文発表会の段階から、物理学の研究に求められる発信力を涵養するものである。 [3.3]
- 博士課程教育リーディングプログラム_IGER_グリーン（別添資料 4513-i3-10）
- フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム（別添資料 4513-i3-7）（再掲）
- トランスフォーマティブ化学生命融合研究大学院プログラム [3.5]
（別添資料 4513-i3-11）

<必須記載項目4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（別添資料 4513-i4-1）
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料
（別添資料 4513-i4-2～6）
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 4513-i4-7）
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料（別添資料 4513-i4-8）
- ・ 指標番号5、9～10（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 最先端プロジェクト研究 [4.1]
 - ・ 名古屋大学博士課程教育リーディングプログラム（別添資料 4513-i4-9）
- 融合学理プログラム [4.1]
 - ・ 博士課程教育リーディングプログラム_グリーン自然科学国際教育研究プログラム（別添資料 4513-i4-10）
- トランスフォーマティブ化学生命融合研究大学院プログラム [4.1]
（別添資料 4513-i3-11）（再掲）
- アクティブラーニングフィールドワーク_公開臨海実習 [4.1]
（別添資料 4513-i4-11）
- 多様な学修機会の設定 [4.1]
 - ・ G30 学生数及び特長（別添資料 4513-i4-12）

名古屋大学理学研究科 教育活動の状況

- ・ G30 大学院入試 2020-2017 実施状況(別添資料 4513-i4-13)
- ・ KMI 国際スクールの実施
理学研究科素粒子宇宙物理学連携_素粒子宇宙起源研究所 KMI スクール
(別添資料 4513-i4-14)
- ・ ChubuSat 衛星実践プログラムとインターンシップ(別添資料 4513-i4-15)
- ・ グリーン自然科学国際教育研究プログラム_スキルセミナー
(別添資料 4513-i4-16)
- 修士論文の複数指導制を実施(多角的指導の実現) [4.5]
- 大学院生のキャリア開発の一環として、学部授業の教育補助業務を行う TA としての採用、博士課程リーディングプログラムや卓越した拠点形成プログラムによって選抜された学生を研究アシスタントとして採用 [4.5]
- 大学院学生の研究指導のために、臨海実験所やリーディング大学院や卓越大学院の提携先である、KEK、JPARC、SPRING-8、宇宙研、JAXA、天文台など共同利用拠点を活用 [4.8]

<必須記載項目 5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料(別添資料 4513-i5-1)
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料(別添資料 4513-i5-2)
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料
(別添資料 4513-i5-3)
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料
(別添資料 4513-i5-4)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- グリーン自然科学国際教育研究プログラム_英語授業[5.1]
(別添資料 4513-i5-5)
- グリーン自然科学国際教育研究プログラム_留学支援[5.1]
(別添資料 4513-i5-6)
 - ・ グリーン自然科学国際教育研究プログラム_留学支援
 - ・ 頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム
 - ・ トランスフォーマティブ化学生命融合研究大学院プログラム国際学会派遣・融合研究派遣
- 学生の自主的学習環境を目的とした理学部図書室の設置[5.1]
(別添資料 4513-i5-7)
- 分野間の有機的交流を目的とした大型教室、学生実験室、セミナー室の確保[5.1]

- 学修成果の可視化を目的とした、「博士課程教育リーディングプログラム」や「卓越した大学院拠点形成プログラム」における e-ポートフォリオの充実[5.2]
実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム e-ポートフォリオ
(別添資料 4513-i5-8)
- 物質理学専攻および生命理学専攻では、博士課程教育リーディングプログラムによる、研究リテラシー教育やキャリアパス形成を目的とした「リーダーシッププログラム」を実施[5.3]
フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム_リーダーシッププログラム
(別添資料 4513-i5-9)
- 物質理学専攻(化学系)では教育、研究、キャリアパス形成等に関する産業界との連携を深めるために Industrial Advisory Board (IDAB)を設置[5.3]

<必須記載項目 6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準(別添資料 4513-i6-1)
- ・ 成績評価の分布表(別添資料 4513-i6-2)
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料(別添資料 4513-i6-3)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 切磋琢磨によって大学院生がエリートの位置づけを自らが勝ち取る制度として、5Star 評価システムを導入[6.2]
 - ・ グリーン自然科学国際教育研究プログラム 5star(別添資料 4513-i6-4)
- 学修成果の可視化として、研究科長顕彰(Nakamura-Usui Prize)の実施[6.2]
 - ・ 理学研究科顕彰に関する内規(別添資料 4513-i6-5)
 - ・ Nakamura・Usui Prize 実施要項(別添資料 4513-i6-6)

<必須記載項目 7 卒業(修了)判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定(別添資料 4513-i7-1)
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業(修了)判定の手順が確認できる資料(別添資料 4513-i7-2~3)
- ・ 学位論文の審査に係る手続き及び評価の基準(別添資料 4513-i7-2)(再掲)
(別添資料 4513-i7-4~6)
- ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料(別添資料 4513-i7-2~3)(再掲)

名古屋大学理学研究科 教育活動の状況

- ・ 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料
(別添資料 4513-i7-5～6) (再掲)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(特になし)

<必須記載項目8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料 (別添資料 4513-i8-1)
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率 (文部科学省公表)
- ・ 指標番号 1～3、6～7 (データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 素粒子宇宙物理学専攻、物質理学専攻 (物理系) では自己推薦入試を実施 [8.1]
- 物質理学専攻 (化学系) および生命理学専攻の入試における英語ペーパー試験の外部英語検定試験の成績提出に代用 [8.1]

グローバル化が急速に進展する中、英語によるコミュニケーション能力の向上が求められており、従来の英語ペーパー試験の「読む」「書く」による英語力評価では不十分であることから、外部英語検定試験の成績提出に代用することにした。これにより、「読む」「聞く」「話す」「書く」英語4技能の総合的評価ができるようになるとともに、受験生の英語力の客観的評価も可能となった。外部英語検定試験は複数回受けることが可能であること、そして社会に出てからも外部英語検定試験の成績を活用できることより、受験生にとっても有用な変更となっている。

名古屋大学理学研究科 教育活動の状況

- 主として高校などの教員を対象とした社会人枠を設置[8.1]

平成19年度自己推薦入試より、物理学専攻（物理系）では、「理科教員枠」を設け、理科を担当する現職の高等教員にも門戸を広げている。

- G30 プログラムによる外国人を対象とする博士後期課程入試（10月入学）を実施[8.1]

物質理学専攻（物理系） 理科教員枠について

平成19年度自己推薦入学試験より、物質理学専攻（物理系）では、「理科教員枠」を設け、理科を担当する現職の高校教員で、「大学院修学休業制度」を適用して専修免許状の取得を目指す国立・公立高校、あるいは私立高校の教員を積極的に受け入れることにしました。この制度の趣旨は、高校の理科教員に、大学院における最先端の研究活動に研究者として参加し、科学の楽しさを存分に味わってもらい、高校での理科教育の一層の充実に貢献していただくというものです。

今年度は、物質理学専攻（物理系）の募集人員20名中の若干名を理科教員枠として、通常とは別で合否を判定します。入学後は、基本的には他の大学院生と同様に教育指導を行います。必要に応じてチューターをつけるなどして適切な指導を行います。また、TA（ティーチングアシスタント）として優先的に採用します。特に、現職の高校教員というキャリアを生かして、教員志望の学生（学部生、院生）に対する指導の補助を行っていただくことを計画しています。

「大学院修学休業制度」を適用して入学する人は高校を休職することになりますが、この制度を適用せずに入学する人についても、現在の勤務している高校を休職していただくことができます。

自己推薦入試志願者には、願書とともに自己推薦書を提出してもらいますが、理科教員枠で受験希望する志願者は、

- 受験の動機
 - 大学院での研究をどのように高校理科教育に生かすか
- についてもできる限り具体的に述べてください。

さらに詳しいことについては、

岡本 祐幸（物質理学専攻（物理系）教授） okamoto@tb.phys.nagoya-u.ac.jp
まで問い合わせてください。

<選択記載項目 A 教育の国際性>

【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 4513-i4-7）（再掲）
- ・ 指標番号 3、5（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- G30 プログラムによる大学院留学生の受入れ [A.1]
G30 国際プログラム群入学試験実施状況一覧（別添資料 4513-iA-1）
- ミュンスター大学をはじめとするドイツの主要大学との大学院生の交流 [A.1]
頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム
（別添資料 4513-iA-2）
リヨン高等師範学校協定書（別添資料 4513-iA-3）
- 大学院生の海外派遣 [A.1]
博士課程教育リーディングプログラム（別添資料 4513-iA-4）
トランスフォーマティブ化学生命融合研究大学院プログラム概要
（別添資料 4513-iA-5）
理学研究科若手研究者等の海外派遣プログラム（別添資料 4513-iA-6）
- 英国エディンバラ大学とのジョイント・ディグリー・プログラムの実施 [A.1]
（別添資料 4513-iA-7）
- G30 プログラム（化学プログラム）では国際標準テスト GRE を一部導入 [A.1]

名古屋大学理学研究科 教育活動の状況

化学系プログラム学生募集要項（別添資料 4513-iA-8）

<選択記載項目B 地域連携による教育活動>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 名古屋市科学館との共催による坂田・早川レクチャー[B.1]

坂田・早川記念レクチャー制度は、坂田昌一・早川幸男両教授の業績をたたえつつ、未来の発展につながるよう、次世代の優れた研究者を養成することを目的として設けられた。

この趣旨に沿って、名古屋大学大学院理学研究科と名古屋市科学館の共催による講演会を開催している。

坂田・早川記念レクチャー

注：名古屋大学理学研究科・名古屋特許院、名古屋大学理学部理学教育研究センター

2019年度の「特別・顕彰記念レクチャー」は、会場となる名古屋科学館サイエンスホールとの交渉工事にともない、開催を断念せざるを得ませんでした。

- ・ 第1回 田口 隆夫（京都大学理学部理学研究科所属）
「超伝導の謎を探る」
- ・ 第2回 田口 隆夫（京都大学理学部理学研究科所属）
「超伝導の謎を探る」
- ・ 第3回 田口 隆夫（京都大学理学部理学研究科所属）
「超伝導の謎を探る」
- ・ 第4回 田口 隆夫（京都大学理学部理学研究科所属）
「超伝導の謎を探る」
- ・ 第5回 田口 隆夫（京都大学理学部理学研究科所属）
「超伝導の謎を探る」
- ・ 第6回 田口 隆夫（京都大学理学部理学研究科所属）
「超伝導の謎を探る」
- ・ 第7回 田口 隆夫（京都大学理学部理学研究科所属）
「超伝導の謎を探る」
- ・ 第8回 田口 隆夫（京都大学理学部理学研究科所属）
「超伝導の謎を探る」
- ・ 第9回 田口 隆夫（京都大学理学部理学研究科所属）
「超伝導の謎を探る」
- ・ 第10回 田口 隆夫（京都大学理学部理学研究科所属）
「超伝導の謎を探る」
- ・ 第11回 田口 隆夫（京都大学理学部理学研究科所属）
「超伝導の謎を探る」
- ・ 第12回 田口 隆夫（京都大学理学部理学研究科所属）
「超伝導の謎を探る」
- ・ 第13回 田口 隆夫（京都大学理学部理学研究科所属）
「超伝導の謎を探る」
- ・ 第14回 田口 隆夫（京都大学理学部理学研究科所属）
「超伝導の謎を探る」
- ・ 第15回 田口 隆夫（京都大学理学部理学研究科所属）
「超伝導の謎を探る」
- ・ 第16回 田口 隆夫（京都大学理学部理学研究科所属）
「超伝導の謎を探る」
- ・ 第17回 田口 隆夫（京都大学理学部理学研究科所属）
「超伝導の謎を探る」
- ・ 第18回 田口 隆夫（京都大学理学部理学研究科所属）
「超伝導の謎を探る」
- ・ 第19回 田口 隆夫（京都大学理学部理学研究科所属）
「超伝導の謎を探る」
- ・ 第20回 田口 隆夫（京都大学理学部理学研究科所属）
「超伝導の謎を探る」

<選択記載項目C 教育の質の保証・向上>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<選択記載項目D リカレント教育の推進>

【基本的な記載事項】

- ・ リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所

理学部聴講生入学案内及び理学部科目等履修生入学案内

（別添資料 4513-iD-1）

- ・ 指標番号 2、4（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 主として高校などの教員を対象とした
社会人枠を設置[D.1]

物質理学専攻（物理系） 理科教員枠について

平成19年度自己推薦入学試験より、物質理学専攻（物理系）では、「理科教員枠」を設け、理科を担当する現職の高校教員で、「大学院修学休業制度」を適用して専修免許状の取得を目指す国公私立高校、あるいは私立高校の教員を積極的に受け入れることになりました。この制度の趣旨は、高校の理科教員に、大学院における最先端の研究活動に研究者として参加し、科学の楽しさを存分に味わってもらい、高校での理科教育の一層の充実に貢献していただくというものです。

今年度は、物質理学専攻（物理系）の専任人員20名中の若干名を理科教員枠として、通常とは別で合否を判定します。入学後は、基本的には他の大学院生と同様に教育指導を行います。必要に応じてチューターをつけるなどして適切な指導を行います。また、TA（ティーチングアシスタント）として優先的に採用します。特に、現職の高校教員というキャリアを生かして、教員志望の学生（学部生、院生）に対する指導の補助を行っていただくことを計画しています。

「大学院修学休業制度」を適用して入学する人は高校を休職することになりますが、この制度を適用せずに入学者についても、現在の勤務している高校を休職していただきます。

自己推薦入試志願者には、願書とともに自己推薦書を提出してもらいますが、理科教員枠で受験希望する志願者は、

- 受験の動機
- 大学院での研究をどのように高校理科教育に生かすか

についてもできる限り具体的に述べてください。

さらに詳しいことについては、

問本 祐幸（物質理学専攻（物理系）教授）okamoto@th.phys.nagoya-u.ac.jp
まで問い合わせてください。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 4513-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 4513-ii1-2）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- ・ 特別研究員奨励費応募データ（理学研究科，関連センター，2019年度）
（別添資料 4513-ii2-1）

<選択記載項目A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料
（別添資料 4513-iiA-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
	4. 卒業後の進路データ	23	職業別就職率
24		産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 部分の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。